

南半球便り（その 69）：ケアンズ訪問

4月12日

豪州で、日本人に最も馴染み深い町の一つはケアンズでないでしょうか？漸く念願のケアンズ訪問が叶いました。今日は、そのご報告です。



ケアンズ名物のケーブルウェイ「スカイレール」

1. 日本に最も近いオーストラリア

地図をご覧になると分かりますが、ケアンズはクイーンズランド州の最北部に位置します。シドニーやメルボルンの人々は、この地域を「Far North」と呼びます。米国南部のある地域が「Deep South」と呼ばれるのに似たものがあります。



(出典：OpenStreetMap contributors)

北にある分、ケアンズは豪州の大抵の都市より日本に近いことになります。直行便で約 7 時間。ハワイより近いのです！道理で、コロナ禍の前には多い年には年間 24 万人を超える観光客が日本からケアンズを訪れていたことが良く理解できます。

2. 待ちに待った訪問

日本人観光客が多いだけでなく、在留邦人も 3,436 人（2021 年 10 月時点）を数えるため、ケアンズには日本の領事事務所が置かれています。私としても、着任後できるだけ早く訪問したいと考えていました。しかしながら、サイクロンの影響やコロナ禍の旅行制限で入境できず、漸くこの時期になって大使としての初訪問ができたのです。

なだらかな小高い山に囲まれた空港に降り立つや否や、日本の田舎に舞い降りたような懐かしさを覚えました。他の豪州の町では、まず見られない景色なのです。

3. 蘇る思い出

実は、ケアンズには 20 年ほど前に来たことがあります。外務省の監察査察室長をしていた私は、パプア・ニューギニアにある日本大使館の査察でポートモレスビーを訪れていました。ところが、生活条件が格段に厳しい現地で、出張中の上司が生死に関わる重病に倒れ、急遽、ケアンズに緊急搬送されたのです。

医療水準が高く、病院施設が完備しているケアンズは、かねてより太平洋島嶼国から

の緊急移送先として重要な機能を果たしてきています。あのときの上司も、お陰様で事なきを得ました。

4. 海と山に恵まれたケアンズ

緊急対応に追われた前回出張時とは異なり、今回はケアンズの溢れる魅力を体感することができました。珊瑚礁と熱帯魚の宝庫であるグレート・バリア・リーフ観光の拠点として有名ですが、ケアンズには世界遺産に指定されている熱帯雨林もあります。



青々と生い茂るケアンズの熱帯雨林

今回はケアンズ市や関係者の方々のご厚意により、同行した小野ブリスベン総領事や松田ケアンズ所長と共に、熱帯雨林を一望の下に見渡すケーブルウェイを堪能することができました。その後、ボードウォークでの散策や巨大な滝を楽しんだ後には、キュランダのマーケット内で、日本風のかき氷までご馳走になりました。



日本語ガイドも完璧



美味しいかき氷は「克蘭ダの隼（はやぶさ）」にて

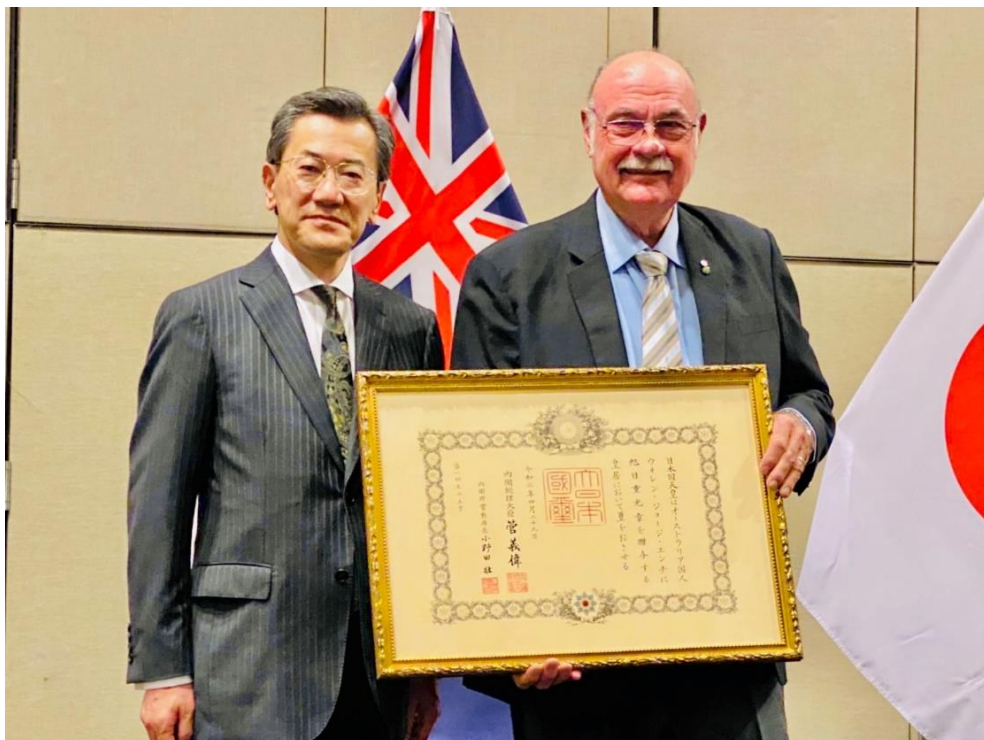
ケーブルカーの透明な床板を通じて、鬱蒼と生い茂る熱帯雨林を形作る様々な樹木の緑の多彩なグラデーションを空中から堪能する、なんとも味わい深い経験でした。現地のテレビクルーに加え、熱帯雨林の巨大蜘蛛にも、「熱烈歓迎」されました。日本からの旅行者増加への強い期待を感じました。【同訪問の様子は、[WIN News](#)、[7 News](#)、[TropicNow](#) でそれぞれ報じられました。】



巨大蜘蛛も一行を「歓迎」

5. エンチ議員叙勲

この時期にケアンズを訪問した大きな理由の一つは、ケアンズを含むライカート選挙区から長年にわたって選出され、連邦下院議員を務めてきたエンチ議員の旭日重光章の伝達式が行われたからです。



連邦議会での豪日議連会長を5年間にわたり務められ、木曜島でのお盆祭りの常連出席者でもあり、訪日歴は20回に及ぶという議会切っ手の日本通。若い頃には44マグナムを携行して銀行のガードマンをしたり、ワニ捕獲にも従事していたとの多彩な経歴を有する、正真正銘の叩き上げの苦労人です。日本を見つめるその目線は、思いやりと優しさに富んでいます。

「この上ない名誉だ。」とご本人が繰り返し、92歳になられるご母堂、そして奥様、お子様、友人の方々に歓待されての伝達式は、本当にアットホームで心温まるものでした。【私の祝辞は[こちら](#)でご覧いただけます。】

6. 観光の再開へ

このような式典を目の当たりにするにつけ、ケアンズを通じて紡がれてきた豪州人と日本人との繋がりに深く感じ入ります。私たち一行を温かく迎えてくださったマニング市長ご夫妻も、長年日本からの交換留学生を受け入れてきてくださった由です。



マニング市長ご夫妻との懇談

また、日程の合間を縫って、ケアンズ日本人会の阪口会長が経営されている指圧治療院、郡山理事が経営されている回転寿司店を「激励」に行って参りました。人の繋がりの太さ、そして深さを反映しているのでしょう。日本で受けられるサービスや質と全く遜色ないレベルのものを笑顔のオーギーたちが享受している有様に、強く強く印象づけられました。



ケアンズで活躍する日本人の皆さんと意見交換



オーギーにも人気の回転寿司店「スシトレイン」

この上は、旅行制限が速やかに解除され、ケアンズと日本との双方向の交流が、かつてのように勢い強く大々的に再開されることを心待ちにしております。そんなケアンズをまた必ず訪れようと決めながら、キャンベラへの帰途につきました。

山上信吾